

## 「理系も多様、 $\pi$ 型を目指して」

日産自動車(株) 高木 祥子

こんにちは。現在の私は、次女の育児休暇取得後、職場復帰したばかり。直前に2人の子供が立て続けに発熱し、看病をする等、慌しくしていました。

私は工学部化学システム工学科を卒業後、文部科学省に2年間行政職として勤務し、その後日産自動車に転職し、5年半が過ぎました。その間結婚と2回の出産を経験しています。皆様の参考になるか分かりませんが、どこかで共感できる部分がありましたら、と筆を進めさせていただきます。

学生時代の講義で、工学部出身者は「T型人間」(自分の専門分野は深く極めているが、同時に幅広い周辺分野まで、理解している人、他者と相互理解しやすい)を目指すべきだと聞いたことが印象的でした。後に、「 $\pi$ 型人間」(さらに専門分野が複数ある人、組み合わせにより他人と差別化でき、新しい発想が生まれやすい)という言葉も聞き、これが自分の進路に対する長い間の悩みへの解決策だと感じました。好奇心が発散しがちな私でも、一生の間に、縦横方向の独自のキャリアを積んで、社会に貢献していけばいいのだ、と思ったからです。そんな私が今後取り組みたい課題は、少し欲張って、以下になると思います。

- ①環境問題の解決による持続可能な世界づくりへの貢献
- ②科学技術教育の普及による、モノづくり日本の維持への貢献
- ③成人の脳の仕組みや子供の発達機構の解明への貢献
- ④人々の心の充足度向上への貢献

私の場合、「 $\pi$ 型人間」でいう、横方向の目標があって、その手段として縦方向のアプローチを目指すという方向性です。漠然としていて、達成度はまだまだですが、これからの人生で、仕事を通じてだけでなく、地域やボランティア活動などを通じて、各課題に取り組んで行きたいと思っています。

そして私的な目標は、仕事を続けながらも、結婚・育児生活をできる限り楽しむことです。子供と一緒にいられる時間が少ない分、ささいな言葉のやり取りや旅行などで思い出を増やし、幸せな時間を心に刻みつけることが大切だと思います。

続いて、社会人になってからこれまでを振り返って紹介いたします。

### 2001年 文部科学省へ入省 (I種化学)

入省時は、①～④全ての目標に取り組むことと期待に胸を膨らませていました。実際に、色々な事業や優秀な方々に少しでも関わられて刺激的な毎日でしたが、仕事の進め方や残業の多さ、自分の得意分野との不一致、現状の制度と自分の理想との乖離等、色々と思い悩みました。

### 2003年 日産自動車に転職

以下のようなことを考慮して、転職しました。

- ・自分の得意である理系から目標の1つに近づけ、何か専門性を身につけることができる。
- ・時間の自由度が高く、長期的に仕事を続けられそうな環境である。

・技術者の中でも、自動車分野なら製品が大きく目に付きやすく、政策的にも重要であるのと、大企業で将来他の部署を経験できる可能性があり、前職の経験が多少なりとも生かせる。

実際には前職の経験なんてたいしたことないので、新卒扱いでの一からのスタート。学生時代からの研究テーマとは異なる燃料電池車づくりの現場で、作業服を着て日々格闘しました。当時は他社開発の電池でしたが、入社一年で車に搭載して形になる、チームで仕事をするという経験をさせてもらいました。また、同年末に、別の企業で研究職の大学先輩と結婚し、私生活でも変化がありました。

#### 2004年 社内で燃料電池の要素開発のグループに異動

自社開発の燃料電池のために必要な実験・評価を行いました。サンプルのばらつきが多いため、条件違いによる結果の再現性が低く、予想した成果がなかなか得られず、苦労しました。

#### 2005年 第1子出産 産休明けで仕事復帰

転職して2年。仕事もまだまだだと思い、夫に3ヶ月の育児休職を取得してもらいました。復職後すぐは、夜中の授乳や風邪の看病などでバタバタする私生活の中、実験装置の選定や導入を担当しました。その後、燃料電池の分子シミュレーションの担当になり、一から勉強を始めました。シミュレーション手法について専門性を深めながら、色々なテーマに関わることができるという「 $\pi$ 型」業務の性質が、私の性格に合っていたようで、毎日が充実していました。そして他社と共同で成果を出すことができましたが、ひとり立ちできる技術者になるまではまだまだ、と思う日々です。

一方、育児期間であることを生かして、子供を大学の乳児研究に協力させたり、TV 取材に応じたり、仕事以外で③の目標を少し実現。そのうちに、同級生の友人が続々と妊娠したのに合わせ、私も二人目を授かりました。ちなみに、共働き中我が家の主な分担は、夫が買い物・食事づくり、私が掃除・育児です。

#### 2008年 第2子出産 初めての育児休職

前回とは異なり、今回はこれからの仕事への意欲を高めるためにも、育休を満喫しようと考えました。できる限り充実した時間を過ごそうと、休職前に書いた「抱負」の実行状況を総括してみます。

##### ・二人の子供達と多くの時間を過ごす

→◎長女が少し赤ちゃん返りをしてしまい負担に感じることもありましたが、いっぱいお話ししたり抱っこしてあげたり、旅行などにも行け、今後大変なときに、思い出せる貴重な時間をすごせたように思います。教育面でも色々と働きかけましたが、蛙の子は蛙なのか、既に興味が親子で似ています。

##### ・地域でのママ友作り・育休仲間の友人と楽しむ

→◎子供が同級生というだけで話題が広がり、仕事上では接することのできない多くの方と知り合い、別の世界を知ることができて、とても楽しかったです。女性だけの集まりですと、子連れで参加できるし、授乳もできるため、育児サークルの運営や主婦向けの講座開講等、④の目標に少し関わられました。

##### ・家事能力を高める

→○結婚後ずっと料理担当でなかった私は、今後のためにも少しずつレパートリーを増やしました。ただ数ヶ月で向上心が萎えてしまい、成長はストップしてしまいましたが、やはり飽きっぽいのでしょうか？

##### ・自己啓発に、読書を多くし、英語力向上を目指す。さらに、資格試験に挑戦する。

→○家事・育児の合間で大変ですが、資格試験なら切迫感を持って時間を作れる、育児の経験が多少なりとも生かせ将来役に立つかもしれないと、保育士試験に挑戦しました。10教科もある勉強量が膨大でま

だ合否も不明ですが、余裕のある方は、興味のある資格試験に挑戦してみるのもおすすめです。

・ボランティア活動に挑戦する

→〇②の目標に関しても欲張った計画を考えていましたが、現実的には家族の協力が得られ、移動距離が少ないボランティア活動のみ可能でした。近所の友人の政治活動支援を少々しました。

職場復帰目前に次女が喘息症状を示し、今後もどんな頻度で症状が出てしまうのか、不安でいっぱいですが、ワークライフバランスを家族や会社と相談して進めて行きたいと思います。これまで仕事が続けられたのも、家族や会社の方々の理解・援助があったおかげですから、大変感謝しています。

最後になりますが、研究職は、職場に自分の代わりがないという自負を抱きながらも、時間の融通がつけやすい仕事ですので、長期的に仕事を続けたい女性の皆様に大変おすすめです。どうぞお待ちしております。



「七五三・お宮参りにて」

【執筆者の紹介】

高木 祥子(たかぎ しょうこ)氏

(旧姓:大塚 祥子)

〈最終学歴〉

東京大学工学部化学システム工学科

〈現 職〉

日産自動車株式会社

総合研究所 燃料電池研究所